

先進地「瀬崎まちづくり」を視察 市民会議

去る二月六日、西区コミ協関係者三四名で、埼玉県草加市瀬崎町を訪ねました。

「瀬崎まちづくり市民会議」は平成一二年、市のまちづくりモデル地区に手を上げ、地域を調査、研究し、自由討議を重ねて出来た住民参加型の組織です。十年を一つの区切とし、ホップ二年、ステップ三年、ジャンプ五年と位置づけ、じっくりと取り組んでいます。

目標は「快適」・「安心・安全」・「共生」のまちづくり。

おもな活動は、①まちづくり活動のいろいろな場面から、活動テーマをもったグループが出来たこと。ワイワイネットワーク、花と緑の町づくり、防犯パトロール隊、瀬崎こどもクラブ、

市長ととことん話そう会、ごみ減量プロジェクトなど十七グループ。

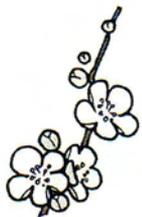
②住民運動の結果コミセンを瀬崎まちづくり市民会議の拠点とし、運営もまかさ

れた。
③平成十五年に検討委員会をたちあげ、ふれ合い親水緑道づくりを市に提言し実現した。

④毎月一回広報誌「瀬崎まちづくりニュース」を発行。

草加市では、まちづくりのために、始めよう、育てよう、動かそう、ありがとう、にそれぞれ助成金があり羨やましく思いました。

(事務局 佐藤)



災害時要援護者名簿登録に たずさわって

災害時に支援を必要と思われの方の訪問をさせていただいた。ある人から「本当にすぐ来てくれるの、誰が来てくれるの。」と問われた。「守るネットワークの人が」と答えながら、何か空しさを感じた。その時ネットワークが正常に機能するのか、自分自身一員として活動できるのか、不安がつ

のる。「災害時要援護者」文字にするのと七文字にしか過ぎないが人が一人で背負える重さではない。皆で助け合わなければ重すぎる。現在人の絆と言えば、家族以外では、地域ではなく、職場、父母の会、趣味の会等のような気がする。子供の頃歌った、うる覚えのうたを思い出す、「トントントン

カラリンと隣組、廻してちようだい回覧板、助けられたり助けたり」あの時代の心を取りもどせたらと思いました。(民生委員 平野)

編集後記

コミ協活動はまだまだ過渡期、地域の実態に合わせた活動が問われています。第二号は自治連とコミ協の活動内容の違いの特集。地域内に新しい自治会も誕生、改めて各自治会紹介を今月から記載します。なお、愛称については応募がなく「西内野コミュニティだより」とします。(K)

